

(4) 教育に対する価値観と悩み

①教育問題に対する考え方

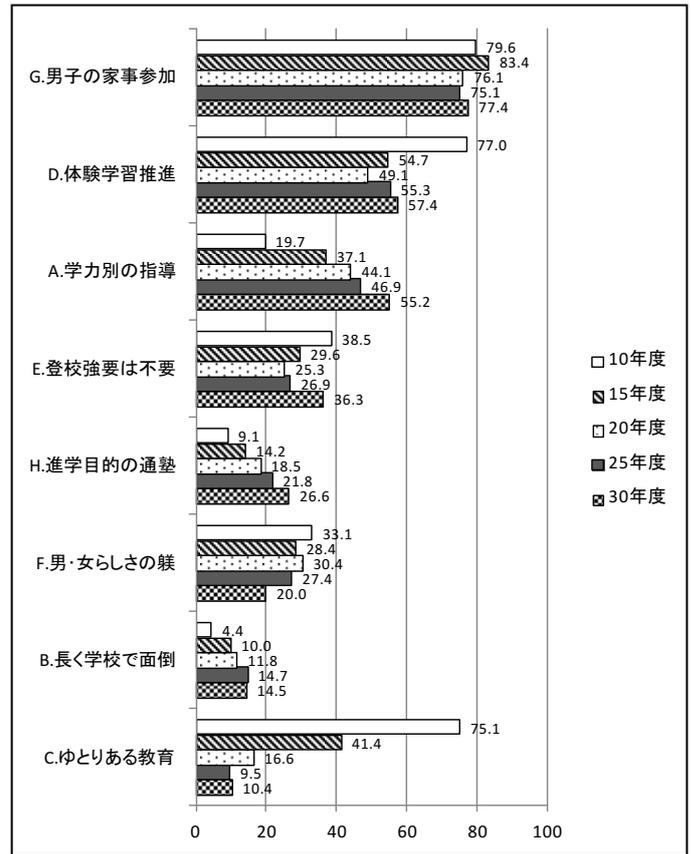
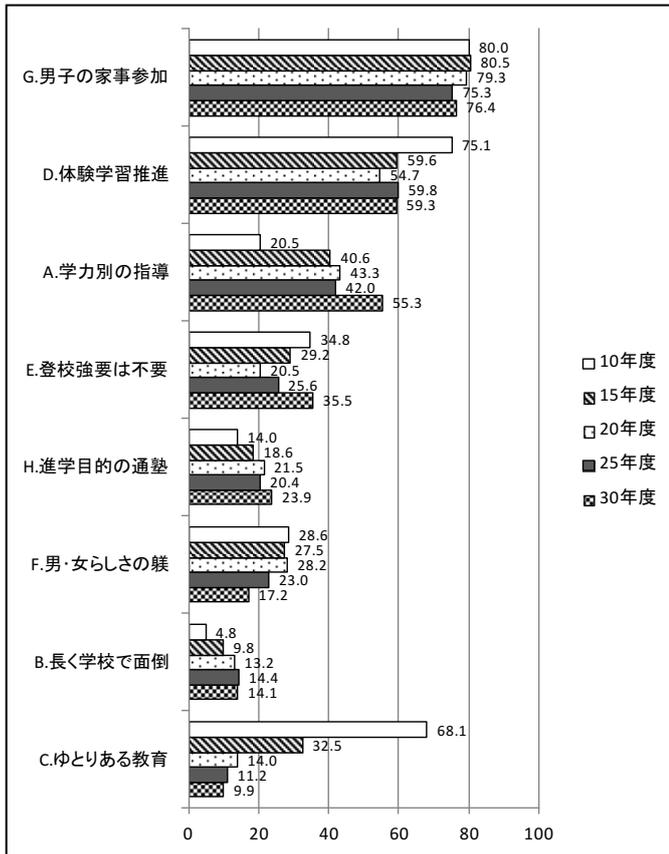
問8 あなたは、次のような意見や考え方について、どうお考えですか。
 (とてもそう思う、そう思う、どちらともいえない、思わない、まったく思わないから選択)

- A 小学校や中学校でも学力別の指導を行った方がよい
- B 子どもはできるだけ長い時間学校で面倒をみた方がよい
- C 学校では、もっとゆとりのある教育をすべきだ
- D 学校では、もっと体験学習（自然体験や奉仕活動等）を取り入れた方がよい
- E 学校に行きたがらない子どもに無理に行かせる必要はない
- F 男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけた方がよい
- G これからは男の子も家事ができるようにしつけるべきだ
- H よい学校に入るためには学習塾へ行かせるのが当然だ

※グラフは、「とてもそう思う」「そう思う」を合わせたものである。

問8 次のことをどう思うか（小学生の保護者）
 〈とてもそう思う+そう思う〉

問8 次のことをどう思うか（中学生の保護者）
 〈とてもそう思う+そう思う〉



<平成30年度の結果>

小学生、中学生の保護者ともに、「これからは男の子も家事ができるようにしつけるべきだ」と考えている割合が最も高く、「学校では、もっと体験学習（自然体験や奉仕活動等）を取り入れた方がよい」「小学校や中学校でも学力別の指導を行った方がよい」が続いている。

また、「子どもはできるだけ長い時間学校で面倒をみた方がよい」と考えたり、「学校では、もっとゆとりのある教育をすべきだ」と考えたりする小学生、中学生の保護者の割合は、ともに低く、1割から2割程度である。

<平成10年度から30年度を通しての変化>

小学生、中学生の保護者ともに、割合が最も高い「これからは男の子も家事ができるようにしつけるべきだ」は、平成15年度の調査をピークに減少したが、今回の調査では増加した。また、「学校では、もっとゆとりのある教育をすべきだ」は、平成10年度の調査から著しく減少した。

「登校強要は不要」は、小学生、中学生の保護者ともに、年を経るごとに減少傾向にあったが、平成25年度の調査では、小・中学生で増加し、平成30年度さらに増加した。

小学生の保護者で、平成10年度の調査から平成30年度の調査にかけて増加傾向にあるのは、「小学校や中学校でも学力別の指導を行ったほうがよい」「よい学校に入るためには学習塾に行かせるのが当然だ」である。^(*)



②公教育に関する話題

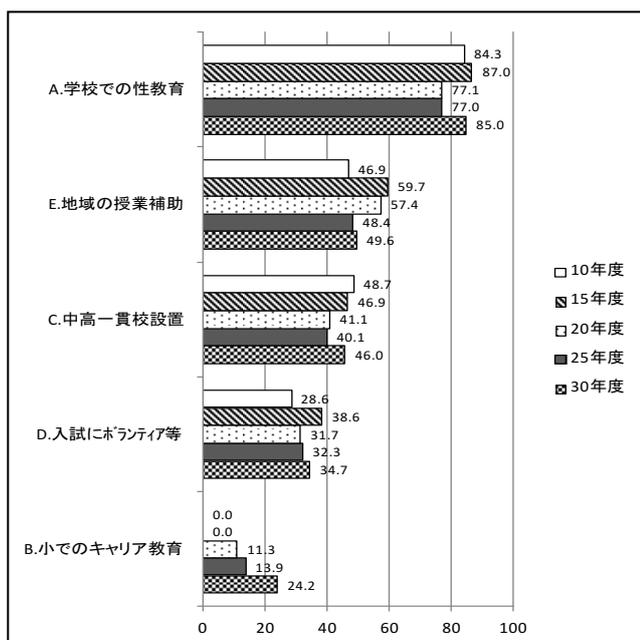
問13 あなたは、公教育の中で次のようなことを進める必要性があると思いますか。
(とてもそう思う、そう思う、どちらともいえない、思わない、まったく思わないから選択)

- A 学校における性教育
- B 小学校からのキャリア教育
- C 公立学校の中高一貫校設置
- D ボランティア活動等の校外体験を入試の判定材料に入れること
- E 地域の人々が学校の授業の手伝いをする

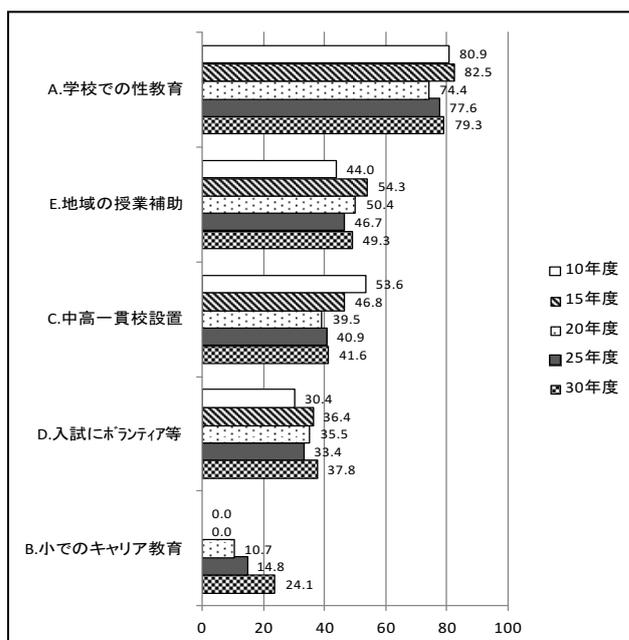
※グラフは、「とても思う」「思う」を合わせたものである。

※「小学校からのキャリア教育」の項目は、10年度・15年度は「小学校における英語教育」

問13 公教育で必要性があるか（小学生の保護者）
(とても思う+思う)



問13 公教育で必要性があるか（中学生の保護者）
(とても思う+思う)



<平成30年度の結果>

小学生、中学生の保護者ともに、「学校における性教育」の必要性を感じている割合が最も高く、「地域の人々が学校の授業の手伝いをする事」が続いている。

昨今、力を入れるようになってきた「小学校からのキャリア教育」は、2割半ば程度の割合にとどまっている。

<平成10年度から30年度を通しての変化>

小学生の保護者では、関心が高かった「学校における性教育」や「公立学校の中高一貫校設置」については、平成15年度の調査以降減少していたが、平成30年度で再び増加に転じた。「地域の人々が学校の授業の手伝いをする事」や「ボランティア活動等の校外体験を入試の判定材料に入れること」は、平成15年度の調査をピークに減少し、平成30年度は平成25年度と同程度であった。「小学校からのキャリア教育」においては、増加傾向にある。^(*)

中学生の保護者では、「学校における性教育」は常に高く、「地域の人々が学校の授業の手伝いをする事」や「ボランティア活動等の校外体験を入試の判定材料に入れること」についても、割合の大きな変化はない。小学生の保護者と同様、「小学校からのキャリア教育」においては増加傾向にある。^(*)

③子どもの教育に関する考え方と悩み

問1 あなたご自身のことについて、おたずねします。

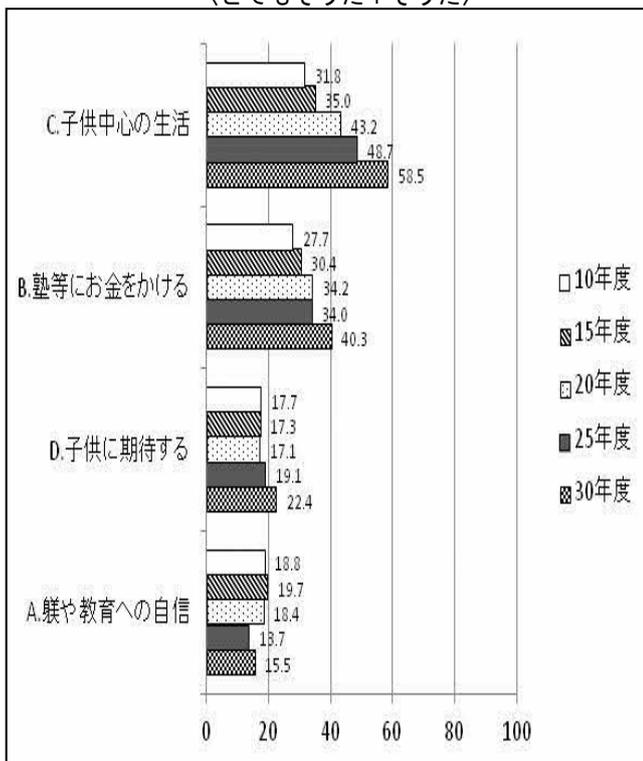
(とてもそうだ、そうだ、どちらともいえない、そうではない、まったくそうではないから選択)

- A 子どものしつけや教育について自信がある
- B 子どもの塾や習いごとにも多少無理をしても、お金をかける
- C 子ども中心の毎日を送っている
- D 自分のできなかったことを子どもに成し遂げてもらいたい

※グラフは、「とてもそうだ」「そうだ」を合わせたものである。

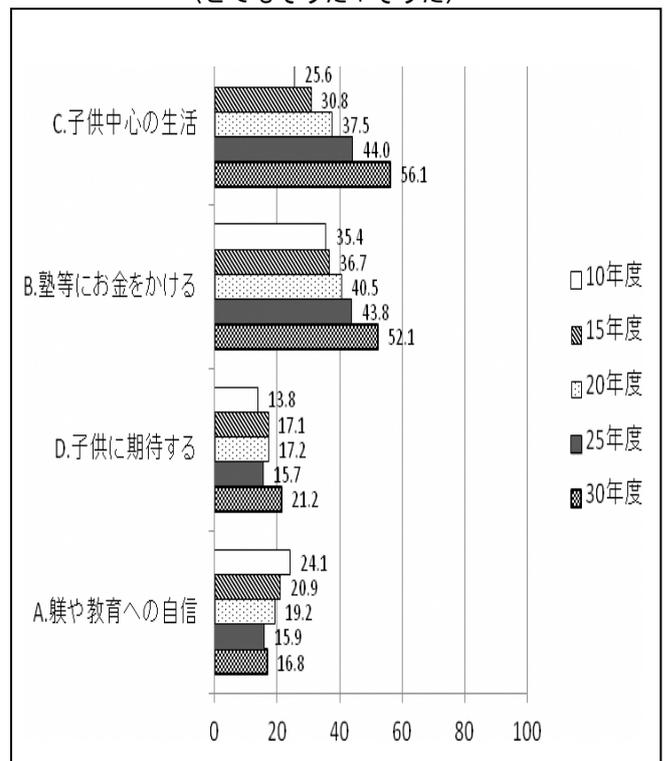
問1 自分自身のこと (小学生の保護者)

<とてもそうだ+そうだ>



問1 自分自身のこと (中学生の保護者)

<とてもそうだ+そうだ>



＜平成30年度の結果＞

小学生、中学生の保護者ともに、多い順は、「子ども中心の毎日を送っている」「子どもの塾や習いごとに多少無理をしてもお金をかける」であるが、塾等にお金をかけるのは、中学生の保護者の方が多い。

「子どものしつけや教育について自信がある」においては、小学生、中学生の保護者とも2割にも満たない。

＜平成10年度から30年度を通しての変化＞

小学生、中学生の保護者ともに、「子どもの塾や習いごとに多少無理をしてもお金をかける」「子ども中心の毎日を送っている」の割合は、調査ごとに増加傾向である。^(*)

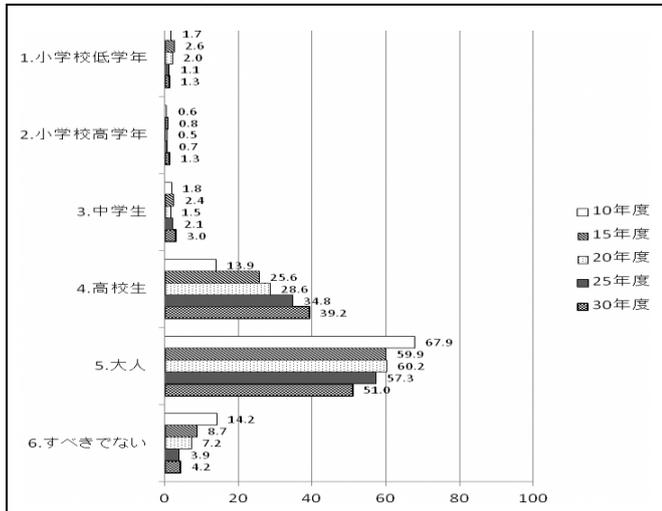
問9 あなたのお子さんが、次のことをしてもいいと思うのはいつ頃からですか。

(小学校低学年、小学校高学年、中学生、高校生、大人、そうすべきでないから選択)

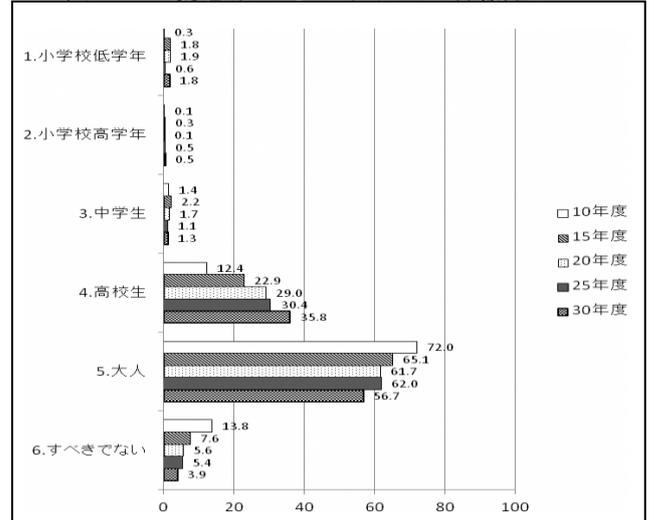
A 髪を染める B ピアスをする C お化粧をする D 携帯電話・スマートフォンを持つ

※以下のグラフは、「小学校低学年」「小学校高学年」を合わせて「小学生」としている。
 ※～平成20年度まで「D 携帯電話を持つ」

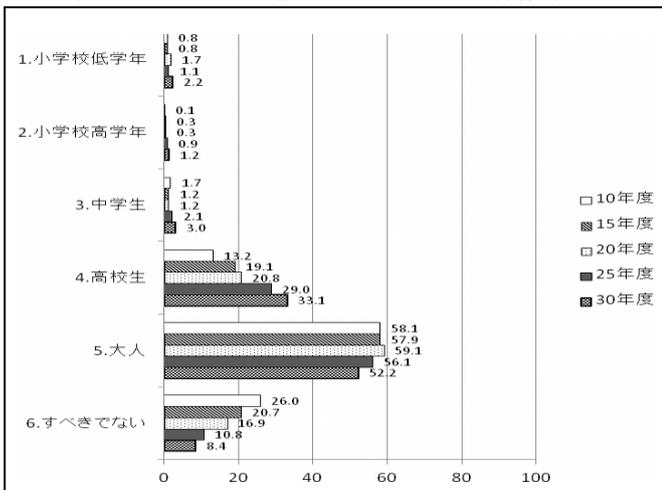
問9A 髪を染める (小学生の保護者)



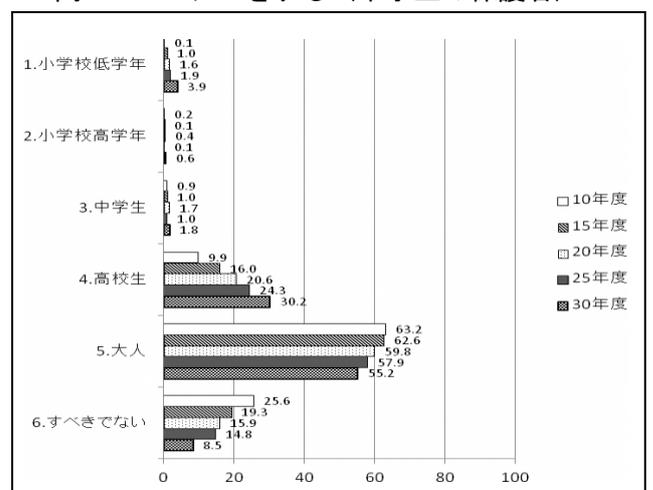
問9A 髪を染める (中学生の保護者)



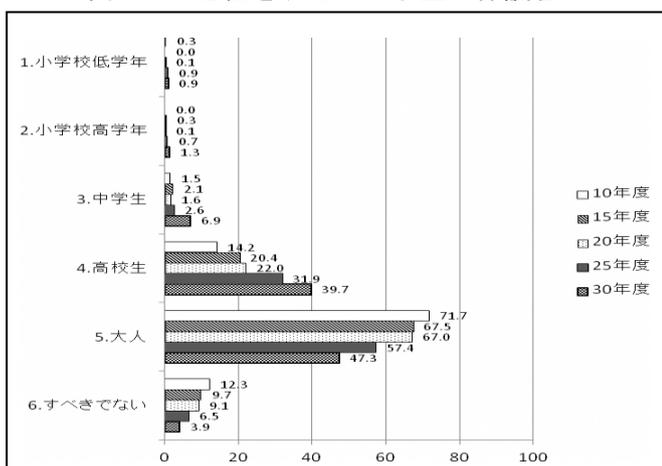
問9B ピアスをする (小学生の保護者)



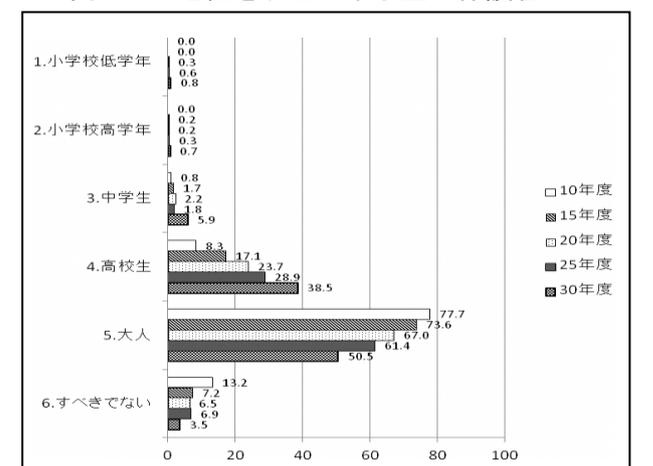
問9B ピアスをする (中学生の保護者)



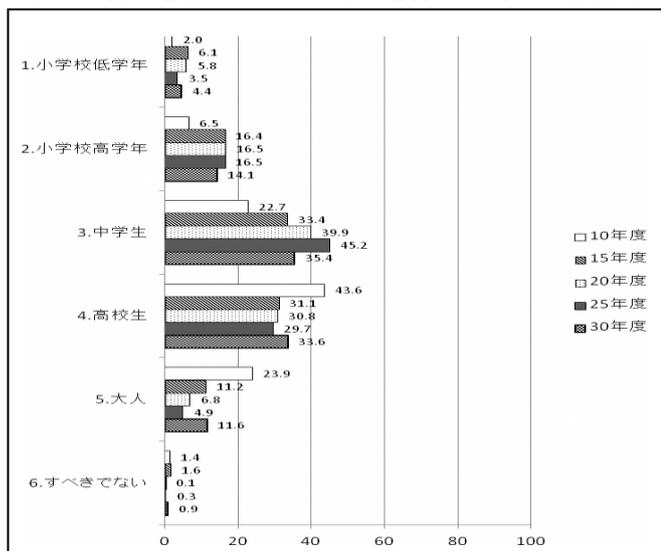
問9C 化粧をする (小学生の保護者)



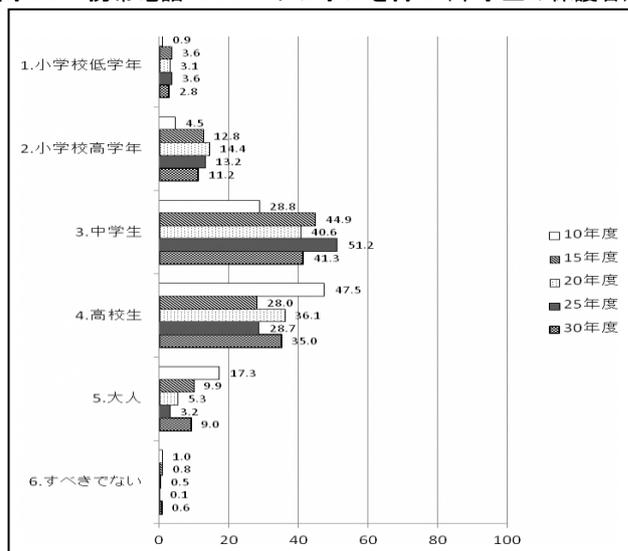
問9C 化粧をする (中学生の保護者)



問 9D 携帯電話・スマートフォンを持つ(小学生の保護者)



問 9D 携帯電話・スマートフォンを持つ(中学生の保護者)



<平成30年度の結果>

小学生、中学生の保護者ともに、「髪を染めてもいい」「ピアスをしてもいい」「化粧品をしてもいい」と思うのは、「大人になってから」と回答している割合が最も高い。次いで「高校生から」となっている。

携帯電話・スマートフォンについては、小学生、中学生の保護者ともに、「持ってもいい」と思うのは、「中学生から」と回答している割合が最も高い。次いで「高校生から」「小学生から」と続いている。「持つべきでない」と考えている保護者は少ない。

<平成10年度から30年度を通しての変化>

「髪を染める」「ピアスをする」「化粧品をする」については、小学生、中学生の保護者とも、「大人になってから」という回答が上位であるが、年を経る毎に減少傾向である。(*)

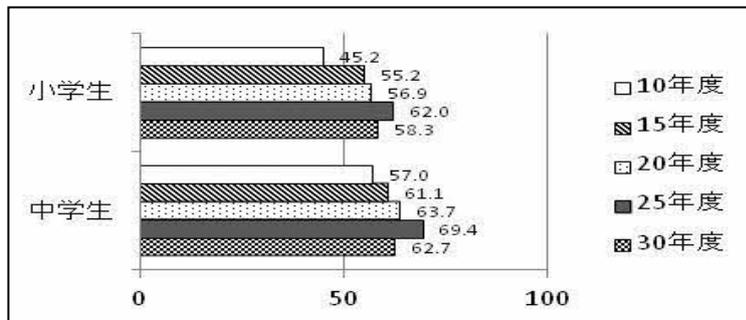
「携帯電話・スマートフォンを持つ」については、小学生、中学生の保護者ともに、「高校生から」「大人から」が、前回の調査より増加した。

④子育ての悩みや実感

問20 あなたは、今、お子さんについて何か悩みがありますか。

1. ある 2. ない

問20 子どもについて悩みがある



<平成30年度の結果>

小学生の保護者は、子どもについて悩みが「ある」と回答している割合が、6割弱であった。中学生の保護者は、6割強おり、中学生の保護者の方が、子どもについて何らかの悩みを抱いている結果である。

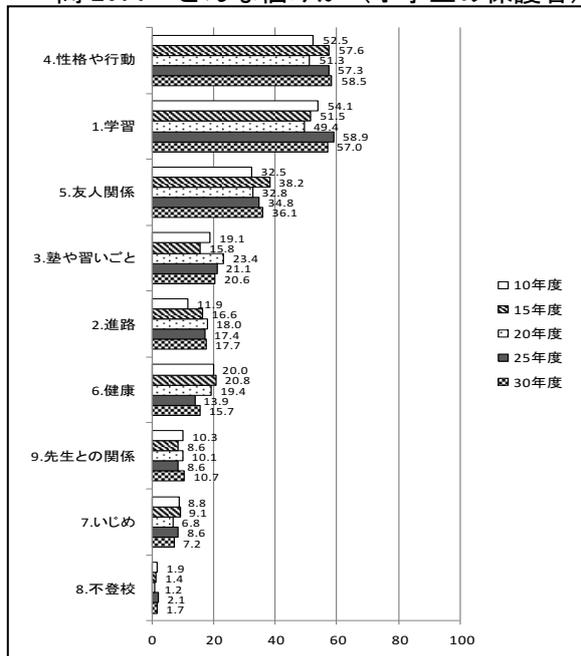
<平成10年度から30年度を通しての変化>

小学生、中学生の保護者ともに、子どもについて悩みが「ある」と回答している割合が平成25年度までは年々増加していたが、今回の調査では若干減少した。

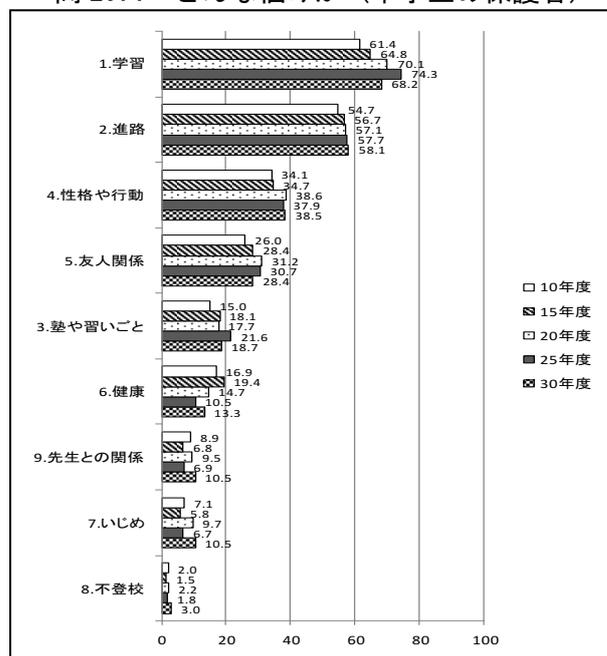
A どんな悩みがありますか。(いくつでも)

- | | | |
|---------------|--------------|---------------|
| 1. 学習について | 4. 性格や行動について | 7. いじめについて |
| 2. 進路について | 5. 友人関係について | 8. 不登校について |
| 3. 塾や習いごとについて | 6. 健康について | 9. 先生との関係について |

問20A どんな悩みか (小学生の保護者)



問20A どんな悩みか (中学生の保護者)



<平成30年度の結果>

悩みの内容については、小学生の保護者では、「性格や行動について」「学習について」が高く、ともに6割弱である。次いで「友人関係について」が3割半ば、その後「塾や習いごとについて」「進路について」が続き、約2割程度である。

いっぽう、中学生の保護者では、「学習について」が最も高く、7割弱である。次いで「進路について」が6割弱、次いで「性格や行動について」「友人関係について」が続き、3割弱から2割弱である。

「進路について」は、中学生の保護者の方が高く、小学生の保護者で2割弱、中学

生の保護者で6割弱となっている。「塾や習いごとについて」は、小学生、中学生の保護者ともに、約2割程度である。

<平成10年度から30年度を通しての変化>

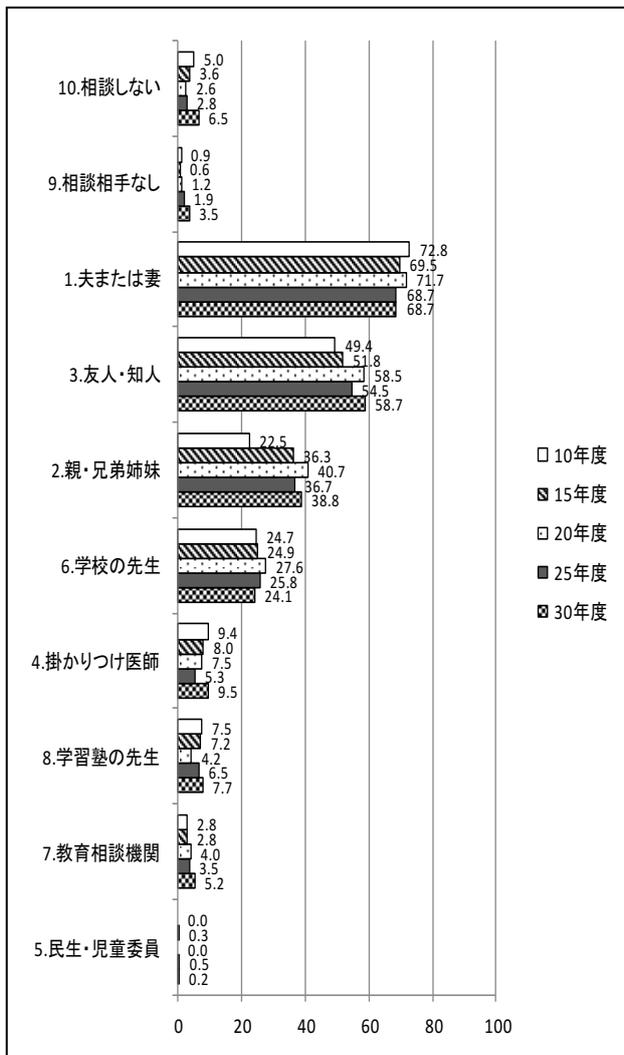
小学生の保護者では、「学習について」が平成25年度の調査よりも若干減少し、「性格や行動」、「友人関係」の値が若干上昇した。

中学生の保護者では、「学習について」の割合は平成25年度の調査よりも若干減少した。しかし、「進路」や「塾や習いごとについて」については、経年での変化はあまりない。値としては低い「教師との関係」、「いじめ」について不安に感じている保護者の割合が平成25年度の調査よりも増加した。

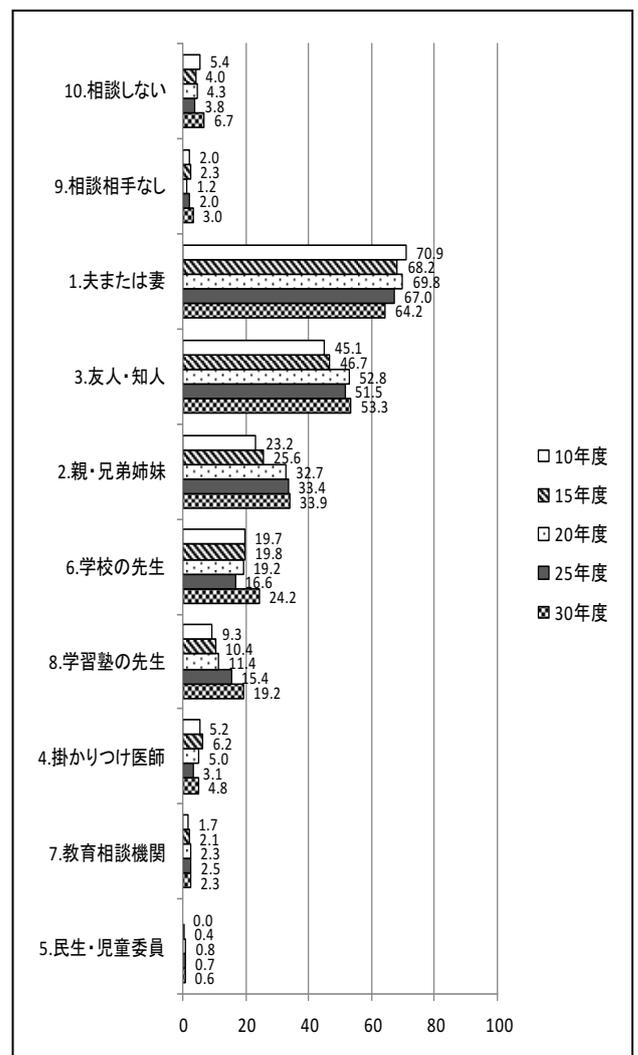
B その悩みをだれに相談していますか。(いくつでも)

- | | |
|-------------|------------------------|
| 1. 夫または妻 | 6. 学校の先生 |
| 2. 親・兄弟姉妹 | 7. 教育相談機関（電話相談を含む） |
| 3. 友人・知人 | 8. 学習塾などの先生 |
| 4. 掛かりつけの医師 | 9. 相談相手がない |
| 5. 民生・児童委員 | 10. だれにも相談しない（自力で解決する） |

問 20B 悩みの相談相手（小学生の保護者）



問 20B 悩みの相談相手（中学生の保護者）



<平成30年度の結果>

悩みの相談相手については、小学生、中学生の保護者ともに「夫や妻」が最も高い。次いで、「友人・知人」「親・兄弟姉妹」が上位を占めている。

「学校の先生」については、小学生、中学生の保護者ともに、2割半ばである。中学生の保護者では「学習塾の先生」が、増加している。(*)

<平成10年度から30年度を通しての変化>

小学生の保護者における悩みの相談相手では、前回の調査で減少した「友人・知人」「親・兄弟姉妹」が、今回の調査で増加した。

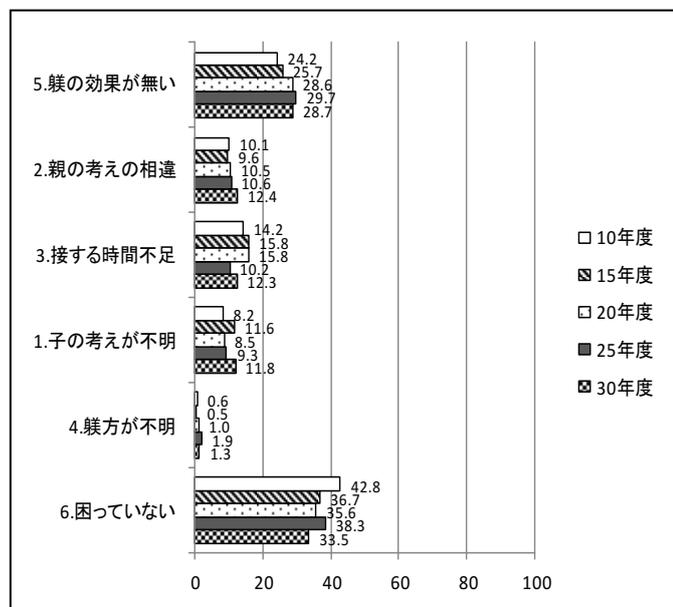
中学生の保護者における悩みの相談相手では、「夫または妻」が最も高い割合を示している。

「学校の先生」「学習塾の先生」を相談相手として挙げる割合が、前回より増加した。

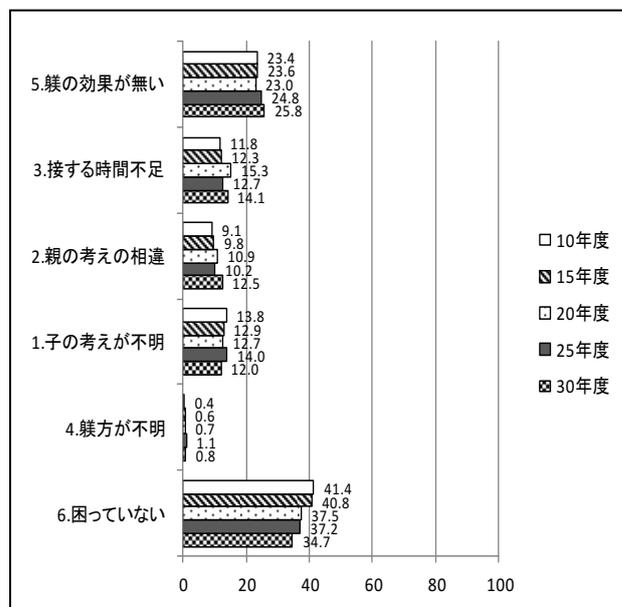
問24 あなたは、お子さんのしつけで、特にどんなことで困っていますか。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. 子どもの考え方がわからない | 4. しつけ方がまったくわからない |
| 2. 父親と母親の考え方が違う | 5. しつけても効果があがらない |
| 3. 子どもに接する時間が少ない | 6. 困っていない |

問24 しつけで困ること（小学生の保護者）



問24 しつけで困ること（中学生の保護者）



<平成30年度の結果>

小学生、中学生の保護者ともに、「困っていない」が3割程度で最も高い。また、困っていることとして、「しつけても効果があがらない」と回答している小学生の保護者は3割弱、中学生の保護者が2割半ばであった。

中学生の保護者では、「接する時間不足」という項目が3番目に高い割合を示しており、1割半ばである。

<平成10年度から30年度を通しての変化>

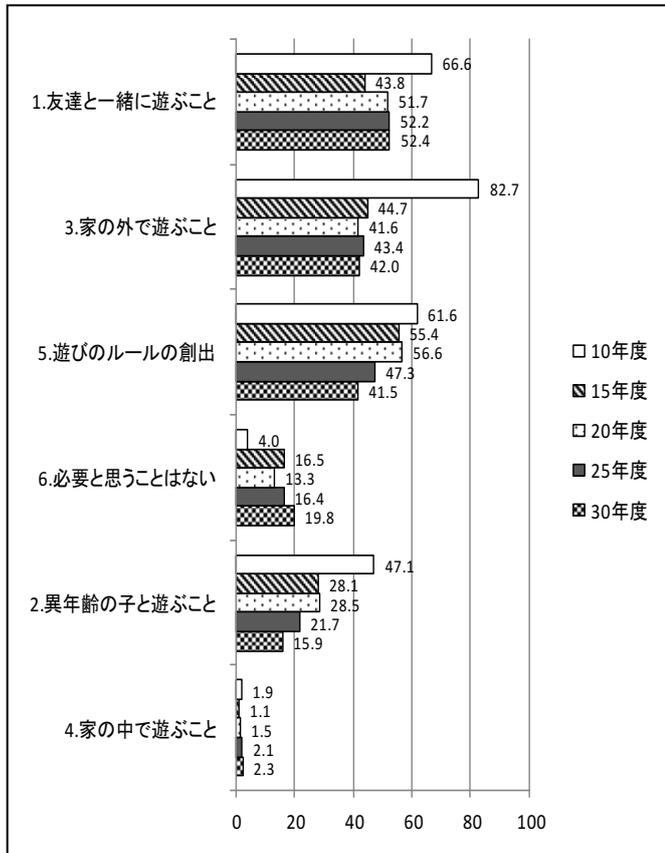
小学生、中学生の保護者ともに「困っていない」割合が減少している。

それぞれの選択肢の項目を見てみると、小学生、中学生ともに「接する時間不足」の項目が増加している。

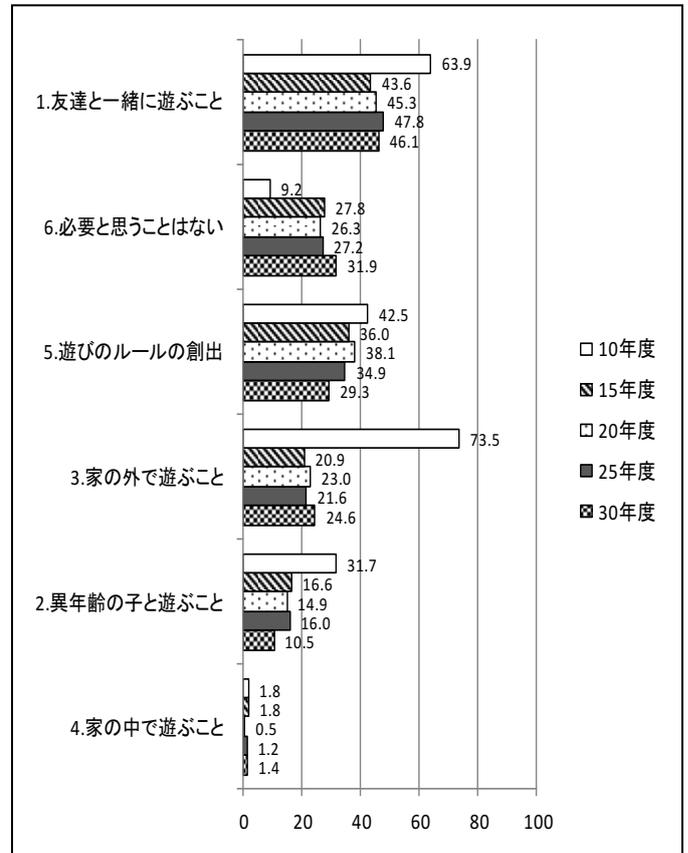
問25 あなたは、お子さんの遊びに関して、もっと必要だと思うことがありますか。

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1. 友達と一緒に遊ぶこと | 4. 家の中で遊ぶこと |
| 2. 違う年齢の子どもと遊ぶこと | 5. 自分たちで遊びや遊びのルールを考え出すこと |
| 3. 家の外で遊ぶこと | 6. 必要だと思うことは特にな |

問25 遊びに必要なこと（小学生の保護者）



問25 遊びに必要なこと（中学生の保護者）



<平成30年度の結果>

小学生の保護者では、「友達と一緒に遊ぶこと」が最も高く、5割強であった。次に、「家の外で遊ぶ」「自分たちで遊びやルールを考え出すこと」が続いている。中学生の保護者においては、「友達と一緒に遊ぶこと」は4割半ばである。

<平成10年度から30年度を通しての変化>

小学生の保護者では、「友達と一緒に遊ぶ」は、今回の調査においても、前回とほぼ変わらず、5割強で最も高くなっている。

「自分たちで遊びやルールを考え出すこと」は小学生、中学生の保護者ともに、前回の調査から減少した。

小学生、中学生の保護者ともに、子どもの遊びに関して、「必要と思うことは特にな」が、平成20年度の調査より増加した。

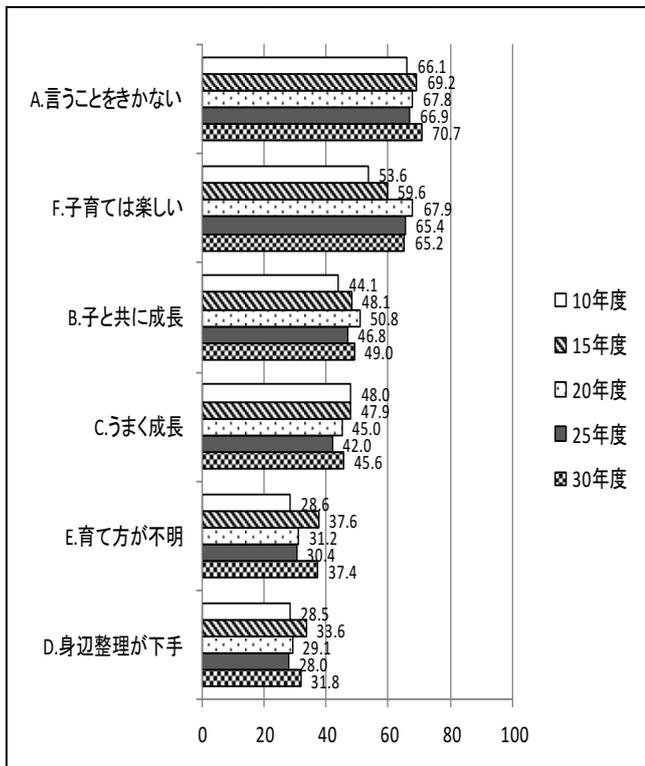
問28 あなたは、お子さんのことに関連して、次のように感じることはありませんか。
 (よくある、ときどきある、どちらともいえない、あまりない、まったくないから選択)

- A 最近子どもが自分の言うことをきかなくなってきた
- B 子どもの成長とともに自分も成長している
- C 自分の子どもは、けっこううまく育っている
- D 子どもの身のまわりのことを、子ども自身にまかせられない
- E 子どものことで、どうしたらよいかわからなくなる
- F 子育ては楽しいと感じる

※グラフは、「よくある」「ときどきある」を合わせたものである。

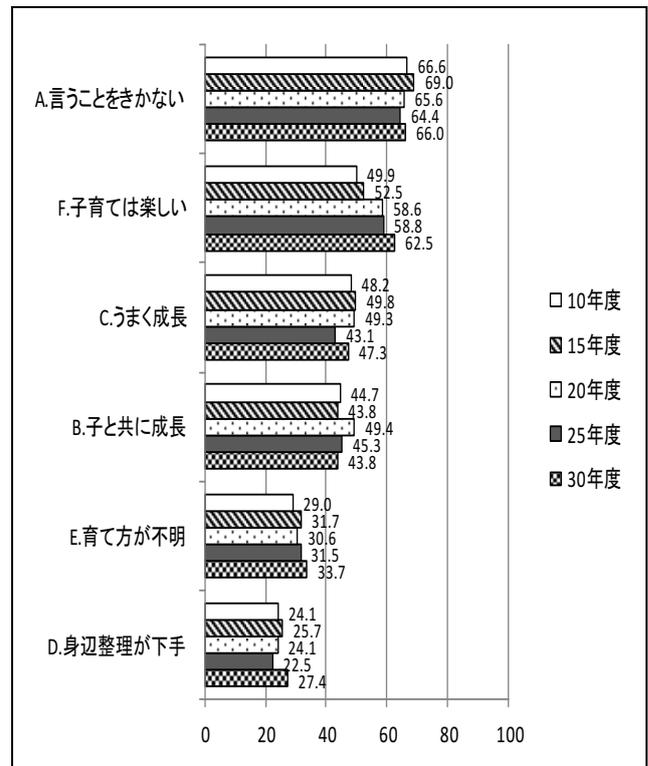
問28 次を感じることもあるか(小学生の保護者)

〈よくある+ときどきある〉



問28 次を感じることもあるか(中学生の保護者)

〈よくある+ときどきある〉



＜平成30年度の結果＞

小学生、中学生の保護者ともに「よくある」「ときどきある」の割合が最も高いのは、「最近子どもが自分の言うことをきかなくなってきた」で、6割を超える。しかしながら、「子育ては楽しい」と感じている割合は、小学生の保護者で6割半ば、中学生の保護者で6割強であり、高い割合を示している。

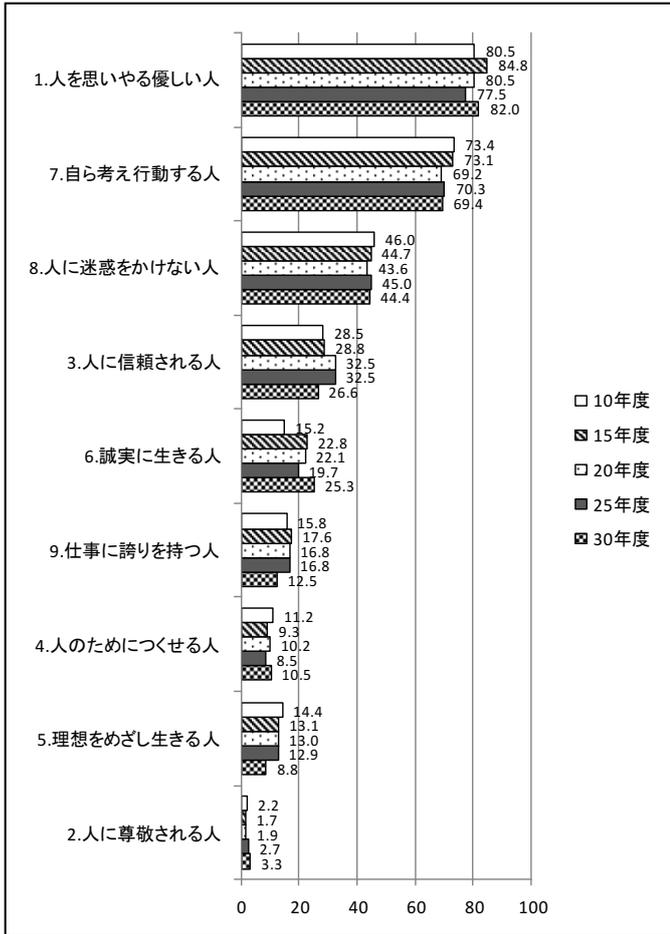
＜平成10年度から30年度を通しての変化＞

小学生、中学生の保護者ともに、多くの項目に関して前回の調査よりも増加した。高い割合を示す「最近子どもが言うことをきかなくなってきた」は、平成15年度の調査より減少していたが、今回増加した。

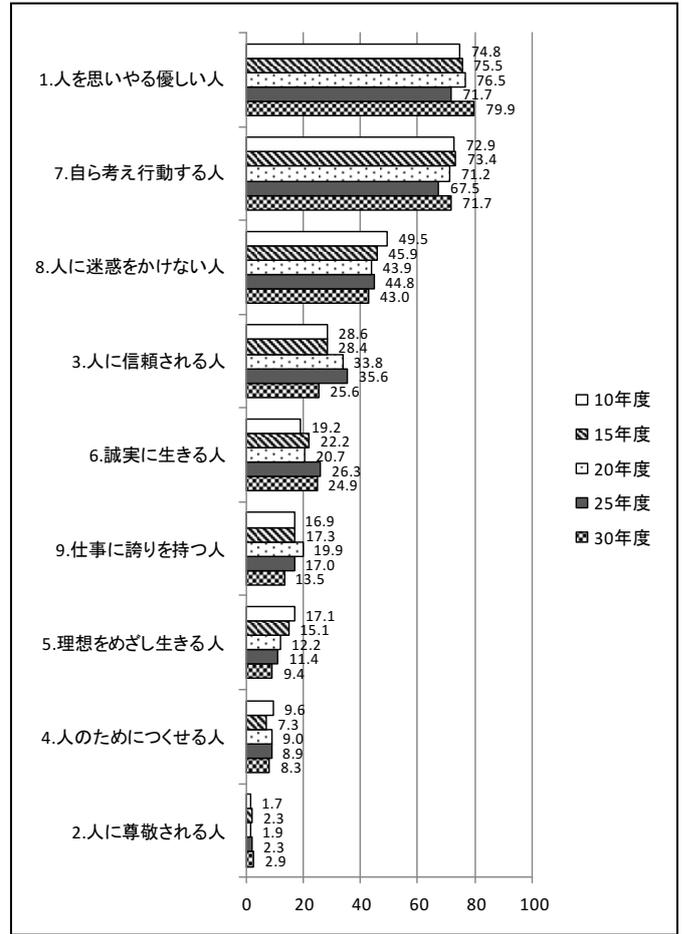
問 2 9 あなたは、お子さんに将来どんな人になってほしいと思っていますか。（3つまで）

1. 思いやりやさしさのある人
2. 人に尊敬される人
3. 人に信頼される人
4. 人のためにつくせる人
5. 自分の理想に向かって生きる人
6. 誠実に生きる人
7. 自分の考えをしっかりとって行動する人
8. 人に迷惑をかけない人
9. 自分の仕事に誇りを持っている人

問 29 どんな人になってほしいか（小学生の保護者）



問 29 どんな人になってほしいか（中学生の保護者）



<平成30年度の結果>

小学生、中学生の保護者ともに、「人を思いやる優しい人」が最も高い割合を示している。次いで、「自ら考え行動する人」が高く、小学生の保護者で7割弱、中学生の保護者で7割強である。

<平成10年度から30年度を通しての変化>

小学生、中学生の保護者ともに、前回調査で増加傾向にあった、「人に信頼される人」が今回の調査で減少した。

小学生の保護者では、「人を思いやる優しい人」は、平成15年度の調査より減少傾向にあったが、今回の調査では増加した。

中学生の保護者では、「自ら考え行動する人」は平成15年度より減少していたが、今回の調査では増加した。「理想をめざし生きる人」は、年を経る毎に減少している。